

資料 2

平成 26 年度事業計画

自 平成 26 年 4 月 1 日
至 平成 27 年 3 月 31 日

一般社団法人日本透析医学会

目 次

1. 総務委員会	(1)
2. 財務委員会	(4)
3. 編集委員会	(4)
4. 学術委員会	(4)
5. 統計調査委員会	(6)
6. 専門医制度委員会	(6)
7. 国際学術交流委員会	(9)
8. 評議員選出委員会	(9)
9. 保険委員会	(9)
10. 倫理委員会	(10)
11. 腎不全総合対策委員会	(10)
12. 危機管理委員会	(11)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(11)

1. 総務委員会

1) 年次学術集会

第59回日本透析医学会学術集会は、大阪大学大学院医学研究科 腎疾患統合医療学 寄附講座教授 椿原美治会長が主宰し、平成26年6月13日(金)・14日(土)・15日(日)の3日間、神戸国際会議場等を会場として開催する。今回のメインテーマは「考える透析」を掲げて開催する。

<特別講演>

「腎臓 EPO 産生細胞を巡る最近の話題」

「診療報酬改定の目指すところ」

「リーダーシップと強い組織作りを考える」

「超高齢者医療の重要性」

<会長講演>

「わが国の統計調査から見た腎性貧血治療の変遷～ガイドライン改訂を見据えて～」

<招請講演>

「Advances in the Management of Renal Anemia」

「Perspectives on Dialysis Therapy in the United States : Growth and changes under the new Prospective Payment System “Bundle”」

「KDIGO CKD-MBD Guidelines Revision – or not?」

<シンポジウム>

「今後のCKD-MBD療法を考える」9題, 「透析患者からみた理想的な保存期管理法を考える」7題, 「我が国のPD療法の課題と展望を考える」6題, 「腎臓の再生医療を考える」5題, 「透析チーム医療における専門資格の意義」6題, 「透析患者の脳血管障害 Up-to-date」5題, 「透析施設経営の未来を考える」6題, 「高齢透析患者対策を考える」5題, 「透析患者の栄養障害に対する新たなアプローチ」5題, 「透析患者の心不全対策を考える」6題, 「透析現場における腎移植患者をどの様に診療するか」5題, 「終末期の看護を考える～意思決定にどうかかわれるか～」5題, 「日本透析医学会統計調査の課題と展望」5題, 「腎性貧血治療の課題を考える」6題

<ワークショップ>

「腎性貧血治療の課題を考える」5題, 「透析患者の感染症：診断と治療」6題, 「長時間・在宅血液透析」5題, 「透析医療における電解機能水の有用性と将来性」4題, 「至適透析液電解質組成を考える」7題, 「通院困難透析患者への対応を考える」5題, 「各バスキュラーアクセスの問題点と解決策」9題, 「透析患者を支える家族ケアを考える Keyword: 家族支援における看護の役割と課題」6題, 「on-line HDFの普及と課題を考える」5題, 「透析治療におけるIT化を考える」5題, 「透析液濃度測定標準化を考える」5題, 「透析領域のモニタリング技術を再考する」9題, 「セルフケアの効果的支援を考える」5題, 「血液浄化法による薬物除去について徹底討論する～この薬物は除去されるのか, どれだけ補充すればよいのか?～」4題, 「透析患者の血圧管理を考える」5題, 「透析患者の心腎関連と睡眠時無呼吸症候群」5題

<教育講演>

「腎移植—現状と展望—」, 「透析患者と腎癌」, 「多発性嚢胞腎患者の特徴と管理を考える」, 「透析患者の足を守る方策を考える」, 「透析患者を理解・支援するための看護理論—病みの軌跡—」, 「後天的に学べる優しさを伝える包括的ケア技術: ユマニチュード」, 「障害児の透析療法を考える」, 「種々の血液浄化器の特徴とその使い分け」, 「運動療法・リハビリテーションを考える」, 「急性血液浄化療法の進歩」, 「明日を担う若手医師とコメディカルスタッフのためのEBM・診療ガイドライン入門～科学的思考を身につけるためにEBMを利用しよう～」, 「観察研究のデータ解析: 交絡と傾向スコア」, 「透析患者に関する医療裁判事例を考える」, 「透析患者のPCI後の再狭窄の病態と予防・対策」, 「On-line HDFの正しい知識」, 「より

長期の腹膜透析療法を目指して」, 「透析と酸化ストレスを考える」, 「ドライウエイトの設定の仕方を考える」, 「CKD 対策の現状と今後の展望」, 「長時間透析・深夜透析の効果と課題を考える」, 「CKD-MBD 対策を考える (薬物療法)」, 「CKD-MBD 対策 (PTx の適応) —内科医, 外科医の立場から」, 「CKD-MBD 対策 (PTx の適応) ~内科医の立場から」, 「塩酸シナカルセトのある 2014 年の PTx」, 「透析患者の骨関節障害と Aβ₂M アミロイドーシス」, 「糖尿病透析患者診療の特殊性—動脈硬化進展を踏まえて—」, 「腎不全とレニン-アンジオテンシン系~保存期から透析導入後までを考える~」, 「透析患者における終末糖化産物 (AGEs) の意義を考える」, 「透析患者における酸塩基平衡異常のマネジメント」, 「血液透析領域におけるヘパリン起因性血小板減少症 (HIT) の最適診断法と治療を考える」

<よくわかるシリーズ>

「PD/HD 併用療法」, 「透析患者の心電図の読み方」, 「抗凝固療法 (急性血液浄化も含む)」, 「透析患者の足を守る方策~透析クリニックで行うフットケア~」, 「急性血液浄化の安全対策」, 「透析機器の機械操作に潜むヒューマンエラー」, 「透析掻痒症: 原因と対策」, 「透析患者の骨折」, 「よくわかる透析患者の運動療法」, 「手根管症候群」, 「不均衡症候群, 足のつり, けいれん 原因と対策」, 「AKI の病態と対策」, 「統計調査データの見方と解釈の仕方」, 「症例から学ぶ透析患者の感染症」, 「透析患者の心臓を守るためには」, 「腎性貧血治療の問題点」, 「血液ガス分析のファーストステップ~代謝性アシドーシスを中心に~」, 「透析指標の考え方」, 「透析患者の口腔病変の予防と対策」, 「on-line HDF の正しい知識」, 「透析患者の栄養管理~透析食の基本から応用への展開~」, 「MIA 症候群とは」, 「透析患者の脂質異常症と管理~Fire-and-forget って何?~」, 「認知症の早期診断と予防」, 「透析患者の患者指導」, 「透析患者のバイタルサインと観察ポイント」, 「患者心理とカウンセリングマインドを学ぶ」, 「腎移植希望患者のケア」

<ベーシックセミナー>

「英文論文 書き方の道しるべ (学術委員会合同企画)」, 「ビギナーのための Vascular Access 管理 作成編」, 「ビギナーのための Vascular Access 管理 使用編」, 「留学を目指す若手医師のための道しるべ (学術委員会合同企画)」, 「透析患者の血圧管理を考える」, 「透析患者の検査の知識: 血液検査・心電図の読み方・胸部写真」, 「透析患者の手術, その注意点を考える」, 「腎臓病食事管理と食品学」, 「CKD-MBD 対策の基礎セミナー 血管石灰化・カルシウム・リン・PTH」, 「若手医師とコメディカルのための透析患者の薬物適正使用」, 「HIV 陽性透析患者への対応を考える」

<学会・委員会企画>

『学術委員会企画: 「わが国のガイドラインの検証と作成方法を再考する」』, 『統計調査委員会企画: 「各国の透析 registry の比較」』, 『国際学術交流委員会企画: 「AKI 関連 AKI: diagnosis and future prospect」』, 『総務委員会 腎不全看護師・栄養管理士ならびに腎臓病薬物療法認定薬剤師・専門薬剤師認定・育成に関する小委員会企画: 「関連職種とのコラボレーション—新たな展開」』, 『腎不全総合対策委員会企画: 「腎不全総合対策委員会報告」』, 『学術委員会 血液浄化に関する新技術検討小委員会企画: 「新技術で開拓する新しい血液浄化法」』, 『学術委員会 ガイドライン作成小委員会企画: 「コンセンサスカンファレンス: すべての CKD 患者に向けた腎性貧血治療ガイドラインの改訂」』, 『学術委員会 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会企画: 「新たな透析スケジュールに適合するシステム」』, 『総務委員会 男女共同参画推進小委員会企画: 「専門医制度と女性医師」』, 『国際学術交流委員会企画: 「International Session 1・2」』, 『専門医制度委員会企画: 「患者のための透析医育成に向けて」』

<市民公開講座>

1. 震災関連講座

- 1) 巨大災害に立ち向かう透析患者の取り組み
- 2) 地震学の現状と限界~想定外を想定しよう

平成 26 年 6 月 15 日 (日) 午後

第 1 会場 神戸ポートピアホテル 南館 1 階 ポートピアホール

2. 市民公開講座

『なめんなよ！慢性腎臓病』（仮題）

平成26年6月22日（日）13:00～16:00（予定）

グランフロント大阪 ナレッジキャピタル・コングレコンベンションセンター

2) 通常総会・臨時総会

第59回通常総会を、平成26年6月12日（木）15:00～

新評議員による臨時総会を、平成26年6月12日（木）第59回通常総会終了後開催

学会賞・奨励賞講演を、平成26年6月14日（土）に開催

3) 役員会

・常任理事会・理事会：平成26年5月・6月・7月・11月・平成27年3月 計5回開催する。

・監事による監査会：平成26年5月14日（水）に開催する。

4) 透析施設会員名簿の発行

会員名簿は例年どおり発行されるが、個人情報保護の観点から、電話番号や責任者氏名などの公表を希望しない施設については、引き続きその情報を掲載しない方針である。

会員専用ホームページに検索マップが開設され、施設・賛助会員の検索ができるようにしたが、さらなる充実を図るとともに個人情報の観点から、施設の公表を希望しない場合には情報を掲載しない方針である。

5) 小委員会

(1) HP・電算機小委員会

学会ホームページの円滑な運営、内容の充実を図る。

① 学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行う。

② 各種委員会、小委員会、ワーキンググループ活動内容を積極的にHPに掲載する。

③ 会員専用ホームページの内容の充実を図る。

④ HPリニューアルについて検討する。

(2) 腎不全看護師・栄養管理士育成ならびに腎臓病薬物療法認定薬剤師・専門薬剤師認定・育成に関わる小委員会

① 第59回日本透析医学会学術集会・総会に委員会企画「関連職種とのコラボレーション—新たな展開」を行う。

② 腎不全看護師育成に関する助言と問題点への対策を行う。

③ 腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師認定制度に対する助言と共同認定を行う。

④ 栄養管理士育成に係る問題点をとり上げ、対策を検討する。

(3) 感染調査小委員会

本小委員会は院内感染の集団発症が発生した時には、関係者の協力を得て機動的に対応するとともに、今後発生の頻度が高いと思われる感染症の事例に機動的に対応する。

(4) 法人問題検討小委員会

本小委員会は、新法人移行後にもたらされる各種の問題点に適宜対応する。

(5) 男女共同参画推進小委員会

第59回日本透析医学会学術集会・総会に、委員会企画「専門医制度と女性医師」を行う。

6) 学会との連絡、協力関係

① 日本医学会、② 日本慢性腎臓病（CKD）対策協議会、③ 透析療法合同専門委員会、④ 内科系学会社会保険連合、⑤ 臓器移植関連学会協議、⑥ 末期腎不全治療説明用小冊子作成、⑦ 糖尿病性腎症合同委員会、⑧ 登録腎生検予後調査検討委員会、⑨ 先行的献腎移植申請審査会、⑩ 透析医療に関するグランドデザイン、⑪ 日本透析医会との連絡協議会、⑫ 日本医療器材工業会と日本透析医学会の連絡協議、⑬ 日本専門医制評価・認定機構、⑭ 脳血管障害、腎機能障害、末梢血管障害を合併した心疾患の管理に関するガイドライン作

成ワーキンググループ等関連各学会等と協力，連携を密にしていく。

2. 財務委員会

平成 20 年 12 月に新公益法人制度が施行され，これに伴い本学会も平成 24 年 9 月 3 日付けをもって一般社団法人に移行した。一般社団法人への移行と共に本学会の財務管理を平成 20 年度改正の新・新公益法人会計基準に則り，新・新基準による経理を実施し，貸借対照表及び正味財産増減計算書等を軸とした本学会活動の正確な各事業別損益の把握をして，より適切な財務管理を目指す。また，移行法人としての期間は，公益目的財産額の把握及び公益目的支出計画の作成等法人の基本情報，公益目的支出計画実施報告書の作成を適正に行う。

以上を踏まえて，税務を含めた適正な会計処理を継続的に遂行し，学会として各常置委員会，小委員会の諸事業を積極的に推進し，多大な成果が得られるよう財務を通じて協力助成すると共に財務業務の全般的な見直しを継続して検討する。

3. 編集委員会

1) 和文誌について

日本透析医学会雑誌を毎月 1 冊，年間 12 冊を発行する。

学術集会・総会特別号（抄録集）を Supplement として発行する。

引き続き，科学技術振興機構が運用する J-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja/>) にて和文誌の電子ジャーナルを公開していく。

電子投稿・査読システムのさらなる充実を図る。

2) 欧文誌について

国際アフェレシス学会，日本アフェレシス学会と共同で，Therapeutic Apheresis and Dialysis (TAD) を引き続き年 6 回発行する。

また，本学会独自の新規欧文誌を立ち上げる。

4. 学術委員会

1) 学会賞・奨励賞の選出

選考規定に則って学会賞・奨励賞の選考を行い，理事会の承認を得る。

2) 学術委員会活動（ガイドライン，提言等の作成，広報活動）等に関する協議

学術委員会の会合を定期的で開催し，学術委員会関連小委員会と共同してすべき学術活動に関して協議・遂行する。

3) 血液浄化療法セミナー

若手医師等を対象とした透析療法を中心とした血液浄化療法に関する基本的知識を深めていただくことを目的としたセミナー（仮）を学術大会と共同して開催する。

4) 小委員会活動

(1) 血液浄化療法の機能・効率に関する学術小委員会（川西秀樹委員長）

1. 第 59 回日本透析医学会学術集会・総会において学術委員会企画「新たな透析スケジュールに適合するシステム」を開催する。

2. 日本臨床工学技士会，日本医療機器テクノロジー協会人工腎臓部会の協力を得て「ISO 対策ワーキンググループ」を継続し，本邦の見解を ISO 基準へ反映させる。

3. 日本臨床工学技士会，日本血液浄化技術学会の協力を得て透析液濃度測定の標準化を図る。

4. 透析液水質基準を再検討する。
 5. 血液浄化療法の機能・効率に関する臨床研究ならびに臨床治験を企画する。
- (2) ガイドライン作成小委員会（政金生人委員長）
1. 当学会のガイドラインの意義、構造、作成・改訂手順を明確化し、「日本透析医学会ガイドライン作成に関わる手順書（仮題）」としてまとめ学会誌に報告する。
 2. 上記手順書を作成するためにガイドライン小委員会を含むガイドライン手順書作成ワーキンググループを設立し、ガイドラインそのものについての定期的な勉強会を開催する。
 3. 腎性貧血治療ガイドライン改訂ワーキンググループ（山本裕康グループ長）：引き続き「2008年版日本透析医学会 慢性腎臓病患者における腎性貧血治療のガイドライン」の改訂作業を行う。
 4. 維持血液透析ガイドライン（渡邊有三グループ長）
 - (ア) 血液透析処方グループ：「維持血液透析ガイドライン：血液透析処方. 透析会誌 46：587-632, 2013」の Therapeutic Apheresis and Dialysis への上梓をもって活動終了とする。
 - (イ) 血液透析導入グループ：「維持血液透析ガイドライン：血液透析導入. 透析会誌 46：1107-1155, 2013」の Therapeutic Apheresis and Dialysis への上梓をもって活動終了とする。
 - (ウ) 慢性血液透析療法の非導入/継続中止グループ：「委員会報告 第57回日本透析医学会学会委員会企画コンセンサスカンファレンスより 『慢性血液透析療法の導入と終末期患者に対する見合わせに関する提言（案）』について、コンセンサスカンファレンス、公聴会の結果を含めて改訂版を作成する。
 5. バスキュラーアクセスガイドライン改定（久木田和丘グループ長）：「慢性血液透析用バスキュラーアクセスの作製および修復に関するガイドライン. 透析会誌 44：855-937, 2011」の Therapeutic Apheresis and Dialysis への上梓をもって活動終了とする。
 6. 透析患者の糖尿病治療ガイドライン（稲葉雅章グループ長）：「血液透析患者の糖尿病治療ガイド2012. 透析会誌 46：311-357, 2012」の Therapeutic Apheresis and Dialysis への上梓をもって活動終了とする。
 7. 栄養問題検討ワーキンググループ（菅野義彦グループ長）：「成人の維持透析患者に対する食事療法基準」の策定にむけて、統計調査委員会と連携してわが国の透析患者の適切な栄養摂取栄養状態の評価法など、基礎的なデータの収集を行い、栄養評価法についてのテキストを作成する。
 8. 新規ガイドライン策定、改訂の必要性について検討する。
- (3) 血液浄化に関連する新技術検討小委員会（山下明泰委員長）
1. 第59回日本透析医学会学術集会（平成26年6月）では、平成25年度の委員会で議論した成果を持ち寄る形で、各委員がその成果を委員会企画として発表する。
 2. 委員会の成果を具体化するための次の段階として、ものづくり、システム構築を進める。他の関連学会・研究会においても同様なセッションを提案する計画もある。
 3. 委員会は平成25年度同様、年に3～4回開催する。ここでは各委員の進捗報告のみならず、問題点解決に向けて互いの協力体制の強化を図る。
- (4) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会（伊丹儀友委員長）
- 2013年度 MSW、看護師、臨床工学技士、薬剤師、医師とが、教育・研究体制の在り方について初めて検討した。各職種学会・研究会を持ち、独自に発展している。同じ患者を対象としている職種であり、各職種の進歩発展の理解および職種を超えた協力をより効率的に行い、生かしていくことは重要と認識した。2回以上は会合を持ち、2015年度の日本透析医学会学術集会では小委員会企画のワークショップなどを行い、各職種学会間の協力・連関の在り方を模索し、それを発表する。
- (5) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会（友 雅司委員長）
- 例年通りの方法で適切な応募研究課題の中から選考する。

5. 統計調査委員会

- 1) 2013年度に行われた「わが国の慢性透析療法の現況」に関するアンケート調査内容から、日常診療に必要な内容を抜粋し図表化した「図説 わが国の慢性透析療法の現況（2013年12月31日現在）」を作成し、第59回日本透析医学会学術集会・総会にて速報として報告する。また、施設会員などに配布するとともに、ホームページに掲載する。
- 2) 2013年度に行われた「わが国の慢性透析療法の現況」に関するアンケート調査（2013年12月31日現在）の内容の詳細をCD化して、施設会員などに配布する。またホームページの会員専用ページに掲載する。
- 3) 2014年1月の本学会誌に「わが国の慢性透析療法の現況（2013年12月31日現在）」を掲載する。
- 4) 「わが国の慢性透析療法の現況（2012年12月31日現在）の英語版を作成し、本学会誌英語版（Therapeutic Apheresis and Dialysis）に掲載する。
- 5) 2014年12月31日時点での慢性透析療法の現況について、透析医療内容の変遷や実態などを把握するための調査項目を作成し、全透析施設に送付し、適切な回収作業を行う。
- 6) 会員、各委員会、ガイドライン作成ワーキンググループなどから統計調査委員会に要望のあった調査・解析や統計調査委員会の委員会研究を行い、わが国のエビデンスを創成する。
- 7) 従来から蓄積されてきたデータベースの検証を継続し、今後の統計調査とその解析に十分な信頼性のあるデータベースを構築・管理する。
- 8) 統計調査データベースを用いた公募研究を募集し、統計解析小委員が協力して研究を行い、学会発表や論文文化を行い、世界に発信する。
- 9) 統計調査委員会委員や統計解析小委員会委員、さらには公募研究者の指導などの目的で、統計解析に関する講習会などを開催する。
- 10) 2013年度末の「PDレジストリ」の結果を踏まえ、2014年末の調査方法や調査項目などを再検討する。
- 11) 日本透析医会を始めとした他学会、さらには米国USRDS等の調査・研究と連携し、データ供与や解析を行う。
- 12) 調査データの匿名化強化の目的で、USBメモリに匿名化プログラムを盛り込む。同時にUSBメモリのウイルスチェックなどセキュリティを強化する。これらに関し、適切な予算化を行う。また、紙媒体での協力施設には、患者の文書同意を求める。本匿名化に関して、再度日本透析医学会倫理委員会での審議を求める。調査方法の変更に伴う回収率の低下を最低限にとどめるべく、周知徹底に努める。
- 13) 委員会が関与する研究、論文文化に関して、日本透析医学会倫理委員会での審議を求める。
- 14) 疫学研究に関する倫理指針の趣旨に沿って、調査内容や結果などを対象患者にも広く公表し、公明性を高めるとともに、進行中の研究内容や研究結果なども公表する。

6. 専門医制度委員会

日本透析医学会専門医制度委員会は、血液浄化療法に関連する医学と医療の進歩に即応した優秀な医師の養成をはかるとともに、透析医学の向上発展をうながし、国民の福祉に貢献することを目的として活動し、よりよい専門医制度の実施を目指すための事業計画を策定した。透析専門医として日本専門医機構から認定を受けることが最重要であり、整備指針に準じて専門医制度の改訂を行う。

1) 専門医制度委員会

各小委員会で整備した内容についての再検討

専門医制度（実施時期理事会一任）の再検討

学術集会・総会における専門医制度改革に関連する委員会企画（教育セミナー）の検討

- (1) 研修プログラム小委員会の検討課題
 研修プログラム初版（案）の再検討
 具体的研修施設群の検討
 - (2) カリキュラム小委員会の検討課題
 研修カリキュラム初版（案）の再検討
 指導マニュアル初版（案）の再検討
 症例要約モデルの改訂の必要性を検討
 セルフトレーニング問題の作成
 - (3) 専門医認定小委員会の検討課題
 専門医へのアンケート調査結果の検討
 専門医適正数の検討
 - (4) 専門医試験小委員会
 専門医試験の実施
 専門医試験問題の管理方法の検討
 特例受験緩和措置の実施
 - (5) 施設認定小委員会
 基幹研修施設と関連研修施設の認定基準の再検討
- 2) 現行の専門医制度規則・規則施行細則については、必要に応じて見直しを審議する予定である。
 専門医制度における女性の透析専門医の支援の在り方についての審議を継続する予定である。
- 3) 「倫理の問題」については毎年啓発しており、専門医認定の口頭試験で受験者の倫理観を確認する予定である。
- 4) 透析専門医としての「質」を継続維持していくため2005年度より、本学会専門医の更新を目指す医師を対象に「セルフトレーニング問題」を導入しており、カリキュラム小委員会編集会議でブラッシュアップを行い、その問題を学会誌に掲載し、専門医・指導医認定小委員会の厳密な審査で所定の正答率をクリアした専門医には一定の研修単位（5単位）を認定している。2009年度から専門医更新必須条件であるセルフトレーニング問題正答を認定期間5年の内1回以上正答として実施している。なお、問題は学会誌には掲載せず、応募者に問題・解答用紙（マークシート）を送付し、受付期間は5月1日～5月31日迄で実施し問題・正解・解説は9号に掲載する予定である。
- 5) 血液浄化法に関する生涯教育の一環として、全国を細則第2条の11地区に分け、年1回各地区の各地方学術集會にて生涯教育プログラムとして実施している講演会に対して、専門医認定小委員会地区委員および施設認定小委員会地区委員が1つの地方学術集會を推薦し、専門医等認定事業から補助金を支給している。この他に、各地区の専門医認定小委員会地区委員および施設認定小委員会地区委員が推薦する1つの生涯教育プログラムに対し、専門医制度委員会がその内容を評価し、5つ以下の生涯教育プログラムを選定し、それを開催する集會に同補助金を支給する予定である。
- 6) 2014年度専門医認定審査は、今までと同様に書類審査、客観式筆記試験（問題形式はAタイプ、X2タイプ）、口頭試問試験の3者の総合的な判断で行い、合否を決定する予定である。優良な試験問題1,000題のプールを目指して、新規問題の作成および過去の試験問題のブラッシュアップを行い、効率的な試験問題作成を可能にするためデータベース化を行う予定である。
- 7) 専門医認定（専門医認定試験）、専門医認定と更新、指導医認定と更新、認定施設・教育関連施設認定と更新、の公示・受付等については下記の通りである。

① 第25回専門医認定

申請受付の会告	2014年3月～5月
申請書類受付	2014年6月1日～6月30日

専門医認定試験（筆答および口頭による学力試験試問）10月19日（第3日曜日）

試験会場 都市センターホテル（東京都）

第5回専門医認定（1995年度認定・2000年度更新・2005年度更新・2010年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2014年8月～10月

更新申請書類受付 2014年11月1日～11月30日

第10回専門医認定（1999年度認定・2005年度更新・2010年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2014年8月～10月

更新申請書類受付 2014年11月1日～11月30日

第15回専門医認定（2005年度認定・2010年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2014年8月～10月

更新申請書類受付 2014年11月1日～11月30日

第20回専門医認定（2010年度認定）更新認定

更新申請受付の会告 2014年8月～10月

更新申請書類受付 2014年11月1日～11月30日

② 第25回指導医認定

申請受付の会告 2014年10月～12月

申請書類受付 2015年1月5日～2015年1月31日

第9回指導医認定（1999年度認定・2005年度更新・2010年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2014年9月～11月

更新申請書類受付 2014年12月1日～12月28日

第10回指導医認定（2000年度認定・2005年度更新・2010年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2014年9月～11月

更新申請書類受付 2014年12月1日～12月28日

第15回指導医認定（2005年度認定・2010年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2014年9月～11月

更新申請書類受付 2014年12月1日～12月28日

第20回指導医認定（2010年度認定）更新認定

更新申請受付の会告 2014年9月～11月

更新申請書類受付 2014年12月1日～12月28日

③ 第24回認定施設・教育関連施設認定

申請受付の会告 2014年4月～6月

申請書類受付 2014年7月15日～8月15日

第2回認定施設・教育関連施設認定（1992年度認定・1995年度更新・2000年度更新・2005年度更新・2010年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2014年4月～6月

更新申請書類受付 2014年7月15日～8月15日

第9回認定施設・教育関連施設認定（1999年度認定・2005年度更新・2010年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2014年4月～6月

更新申請書類受付 2014年7月15日～8月15日

第14回認定施設・教育関連施設認定（2005年度認定・2010年度）更新認定

更新申請受付の会告 2014年4月～6月

更新申請書類受付 2014年7月15日～8月15日
第19回認定施設・教育関連施設認定（2010年度認定）更新認定
更新申請受付の会告 2014年4月～6月
更新申請書類受付 2014年7月15日～8月15日

7. 国際学術交流委員会

- 1) 第59回日本透析医学会学術集会における国際学術交流委員会セッションを主催する。
 - (1) AKIに関するシンポジウムを日本腎臓学会、日本急性血液浄化学会の後援を得て、実施する。
#1.“AKI”
Moderators : Drs. Kento Doi, Yoshitaka Isaka
Speakers :
 1. Dr. Kento Doi (Japan)
 2. Dr. Zoltan H. Endre (Australia)
 3. Dr. Ravindra L. Mehta (USA)
 4. Dr. Yukio Yuzawa (Japan)
 5. Drs. Takabatake Y, Isaka Y (Japan)
 - (2) 大会長企画の透析レジストリーについて、国際学術交流委員会として、連携、協力する。
#2.“Registry”
Moderators : Drs.
Speakers :
 1. Dr. Allan J. Collins (USA)
 2. Dr. Kitty Jager (EDTA)
 3. Dr. Stephen McDonald (ANZDATA)
 4. Dr. Dong Chan Jin (Korea)
 5. Dr. Philip Kam-Tao Li (Hong Kong)
 6. Drs. Hamano T, Iseki K, Tsubakihara Y (JSDT)
 - (3) 一般演題として、海外からの参加者を募集する。特に透析 registry に関して優先的に募集し、大会長の
(2) 透析レジストリーシンポジウム等での発表など、大会企画と連動するセッションを行う。
 - (4) 海外からのシンポジスト、参加者および JSDT 会員（評議員）・国際学術交流委員会委員の国際学術交流の場として、大会期間中に Welcome Party を開催する。
- 2) 第7回国際血液透析学会議（7th Congress of the International Society for Hemodialysis）への協力
 - (1) 国際学術交流委員会として、座長等、第7回国際血液透析学会議の運営に協力する。
 - 3) 透析に関する国内開催国際学会へ積極的に支援を行い、日本透析医学会の国際的地位向上につとめる。
 - 4) 海外で開催される透析関連の学術交流目的の会議等へ委員・会員の派遣等の支援を行う。

8. 評議員選出委員会

評議員の任期は2年であり、2014年2月に評議員選挙が実施されたので、今年度は委員会は開催されない。

9. 保険委員会

平成28年度保険改定に向けて内科系社会保険連合（内保連）の血液浄化委員会、日本腎臓学会、日本アフェレ

シス学会，日本急性血液浄化学会，日本小児腎臓病学会，日本腹膜透析医学会並びに日本透析医会と連携して提案項目の検討を行い，内保連を通じて厚生労働省に提案する．今後，診療報酬の決定において費用対効果が重視される可能性があり関連委員会ならびに関連学会・研究会等と協力してエビデンスの構築を図る．

「透析液水質確保に関する研修」を第59回日本透析医学会学術集会および専門医制度委員会が認定している地方学術集会ならびに全国規模学術集会において実施する．

10. 倫理委員会

- 1) 透析医学会として対応すべき倫理に関する課題に対して，適時委員会を開催し審議する．
- 2) 個人情報安全管理ならびにその適切な取り扱いをするため，個人情報管理者である倫理委員長が個人情報の利用等の管理に適時対処する．
- 3) 「研究倫理に関する検討小委員会」を設置して透析医学会の研究倫理に関して検討する．

11. 腎不全総合対策委員会

- 1) 腎移植の普及に努める．
 - (1) 腎移植への理解を深めるため，日本移植学会，日本臨床腎移植学会などと共同にて，日本透析医学会学術集会・総会，および関連学会・研究会などで臓器移植ネットワークの活動内容の紹介を含め，移植，特に献腎移植や生体腎移植の啓発活動を行う．
 - (2) 日本移植学会，日本臨床腎移植学会，日本小児腎臓病学会と協力し，日本腎臓学会の「腎移植研修プログラム（教育セミナー，研修病院での研修）」へ会員の参加を積極的に呼びかける．
 - (3) 医療側，患者側の治療法選択と施設選択に役立てるために，上記学会と協力し合い末期腎不全統計の詳細な積極的な公開を進める．この実務に当たる腎不全総合対策委員会ワーキンググループでは，末期腎不全統計，preemptive 腎移植，保存期腎不全治療，腎代替法についてのコンセンサスなど，実質的な検討を行う．

また，その成果を学会誌，学会 Web，商業誌，monographなどで公開し，腎不全治療の啓発に努める．
 - (4) ドナー不足に対して，各種学会・研究会などにおいて，臓器提供カードの配布を推進し，臓器提供の増加をはかる．また生体腎移植の実態について啓発を行う．
 - (5) 日本移植学会，日本臨床腎移植学会，日本腎臓学会，日本糖尿病学会とともに，生体腎移植のドナーガイドラインを策定し，各学会と共同で公表する．
 - (6) 会員に，改定された「臓器の移植に関する法律」のガイドラインについて広報し，「旅行移植」が望ましいことでないこと，「病腎移植」はきちんとした倫理的手続きを取らない限り施行すべきでない等の問題についても積極的な啓発活動を行う．
- 2) 慢性腎臓病（CKD）対策を講じる．
 - (1) 日本腎臓学会，厚生労働省が支援している進行性腎障害に関する調査研究班，本学会統計調査委員会と協力し，当委員会傘下のCKD対策小委員会，腎臓病総合レジストリーワーキンググループを中心に，円滑なレジストレーション，および腎臓病（腎生検）記録カードによる有益なデータ解析が行えるように体制を強化する．
 - (2) 小児についても，日本小児腎臓病学会を加えた上記機構で同様に進める．
 - (3) 厚生労働省が支援しているCKD重症予防研究についても協力する．
- 3) 腹膜透析の普及に努める．
 - (1) 日本透析医学会で作成された腹膜透析に関するガイドラインを基に教育セミナーなどを行うよう，透析医学会内で推進し，それらへの参加を会員に呼びかける．

- (2) 日本腎臓学会にも働きかけ、腎代替療法の一つとしての腹膜透析を患者に十分説明できるよう、腎臓専門医に対し啓発活動を行う。
- 4) 患者が末期腎不全治療の選択が適正に行えるよう、日本腎臓学会、日本移植学会と合同で「末期腎不全治療選択」小冊子を改訂し、DVDを作成し、この配布と普及に努める。
- 5) 日本腎臓学会、急性血液浄化学会、集中治療医学会とともに、KDIGOガイドラインなどとは大きく異なるわが国の実情にあった急性腎障害（AKI）診療ガイドラインの策定を目指す。

12. 危機管理委員会

- 1) 東日本大震災学術調査ワーキンググループの活動を継続し、統計調査委員会と協力の上震災の透析患者の病態、生命予後に与える影響について解析し2次報告書を作成する。
- 2) 東日本大震災学術調査ワーキンググループの提言をまとめたダイジェスト版を作成して、英語論文化する。
- 3) 東日本大震災学術調査ワーキンググループの作成した報告書、災害時の透析治療の展開に関わる提言書を、自治体、災害対策関連団体、透析関連団体に送付し、災害下の透析医療の整備に関する啓発活動を行う。
- 4) 災害下の透析治療の展開に必要とされる、最低限の患者情報の取り扱い、最低限の透析治療の内容についてのコンセンサス作りを行う。
- 5) 日本透析医学会の理事、統計調査委員会地域協力員は今年度も引き続き日本透析医会の災害対策メーリングリストに参加し、災害時の緊急情報の共有ならびに支援体制の構築にむけて関連団体と協力する。
- 6) 厚生労働省等から報告される、薬剤・医療器具などに関する緊急安全情報の中で、透析医療に関わるものについて、日本透析医学会ホームページを利用して会員に周知を図る。
- 7) 透析医療における安全管理、災害と透析医療をテーマとした学術活動の提案、関連団体の学術活動への協力を行う。
- 8) 日本透析医会が中心になって現在調査が進行している「透析医療事故の実態に関する全国調査」について、具体的な協力体制を展開し、透析医療における医療事故防止の啓発に努める。

13. 研究者の利益相反等検討委員会

- 1) 本学会における医学研究の利益相反（COI）に関する指針ならびに取り扱い細則の見直しを行う。
- 2) 理事長の諮問により利益相反状態の問題の有無・程度の検討、審査請求に対する判断・マネジメント等を行う。